

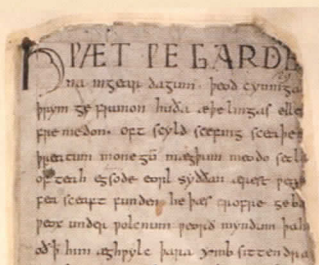
イングランドから 北海沿岸文化を訪ねよう

ヴァイキングの歩みとともに

第5回 スウェーデンと イングランド

冒険・伝説・神話の舞台へ

伊藤 盡 Ito Tsukusu (信州大学准教授)



『ベオウルフ』写本：冒頭断片
(London, British Library, Cotton
Vitellius A. xv, fol. 129r.)



『ベオウルフ：呪われし勇者』
DVD (Beowulf, 2007年)



古英詩『ベオウルフ』と古きスウェーデン

イングランド人の誰かが、先祖伝来の口誦伝承を素材として作り、英語で書き残し、筆写され、写本としてはほぼ完全な形で残された現存最古の英雄物語といえば、『ベオウルフ』である。しかし、その主人公ベオウルフはイングランド人ではない。アメリカ人のロバート・ゼメクス監督がCGを使ってハリウッド映画『ベオウルフ：呪われし勇者』（2007年）に仕立てたような、デンマークの王様になった人物でもない。

ベオウルフは、古英語で Geatas と呼ばれた民の王ヒューエラーク (Hygelac) の甥という設定だ。Geatas を「ゲータス」などと発音してはいけない。4、5世紀から11世紀にかけて、古英語の [g] という発音は、前舌母音 i, e, æ の前後では舌の位置が前方に来たために [j] という音に近くなった。そこでここでは「イエータス」(単数形 Geat「イエート」) と仮名書きしよう。

綴りは G なのに、Y の発音なんて! と憤慨なさるな。現在のスウェーデンでも同じような音声学的現象が起きているのだから。スウェーデン第2の都市であるイエーテボリは、スウェーデン語では Göteborg と綴られる。またイエーテボリの在る地域 Västergötland と隣接する Östergötland は、それぞ

れ「西の Götland」と「東の Götland」を意味するのだが、Götland はスウェーデン語で「イヨランド」のように発音されている。古英語の Geatas すなわち「イエータ族」の土地と考えてよいだろう (より慎重な学説を唱える人もいる)。

古英詩『ベオウルフ』は物語る。デーン人の王フロースガール (Hrothgar) を悩ます怪物グレンデルの噂は海を渡って広がり、イエータの王族ベオウルフの耳に入る。かつて自分の父親がフロースガールに助けられた恩を返そうと、若き勇者は怪物ばかりか、その母親の女怪をも退治する。年老いてイエータの王となったベオウルフは、自分の民を襲った火竜を退治して命果てる。物語の語り手は、ベオウルフ亡き後、イエータ人が北部のスウェーア人との戦いに敗れ、スウェーアの王に支配されることを不安げに予言する。つまり、現在のスウェーデン南部には、イエータ族がかつて王国を持っており、北部のスウェーア人と戦い、海を隔ててデーン人と交流を持っていたという歴史や伝説を、古英語を話す人々は知っていたわけだ。なお、現在の Sweden、Swedes という英語の国名と国民名は、「スウェーアの民」という意味の古英語 Sweoþeod および古北欧語 Svíþjóð を理解できずに綴りを変えてしまった14世紀頃のイングランド人の表記に由来するとされる。



復元されたヴァイキング船
映画『ベオウルフ』(2005年)より



環になった船先を持つオーセベリ船
(オスロ・ヴァイキング船博物館)



『ベオウルフ』DVD
(Beowulf & Grendel,
2005年)

青銅器時代の絵画石碑

イエーテボリから約80キロ離れたアスクムにある。船先の環が確認できる。



ガムラ・ウプサラ教会の
ルーン碑文

(Gamla Uppsala kyrka, U978,
A.D. 1000年頃)
「イングランド渡り」の
シグヴァーズルが父ヴ
ィズヤールヴルを記念
してこの石を立てた

オルケスタ教会の
ルーン碑文

(Orkesta kyrka,
U344,
A.D.1020年頃)



イングランドを襲うスウェーデン・ヴァイキング

古英詩の中で、若き英雄ベオウルフは、船先が環を描く船に乗って13人の戦士とともにデンマークに渡る。船先が環になった船と言えば、たとえば現在オスロのヴァイキング船博物館にあるオーセベリ船などのような、ヴァイキング時代の船が思い浮かぶ。日本では劇場公開はされなかったものの、熱狂的なファンからの要請を受けて日本語字幕のついたDVDが流通する『ベオウルフ』(ストゥラ・グナルソン監督、2005年)では、船先が丸くなったヴァイキング船を復元して撮影が行われた。古英詩『ベオウルフ』に登場するイエーア族の王ヒューエラークは、トゥールの聖グレゴリウス(538?-594?)の著書『フランク族の歴史』に記録されるクロキライクス(Chlochilaicus, 516-31年の間に戦死)と見なされているので、時代設定は6世紀ということになる。ヴァイキング船の登場は時代錯誤かな?と思えそうだが、実は、スカンディナヴィアでは先史時代からこのような船先に乗っていたので、ご安心を。北欧に数多く残される先史時代の船の絵でも、多くの船先が環になっている。

そんなヴァイキング船に乗る冒険は、現代でもスウェーデン人ルーネル・ヨソソン(Runer Jonsson, 1916-2006)の児童

文学の傑作 *Vicke Viking* (Stockholm:1963年)によって、世界中で知られている。1974-75年に、アニメ『小さなバイキング ビッケ』として日本中の子どもたちの人気を得たことも、筆者と同世代の人ならば記憶しているに違いない。ビッケは最初の航海でフリースラント、フランク王国、デンマークを訪ねる。スウェーデンからは西への航路だ。

西への航路をさらに進むと、北海沿岸で最も裕福だった国イングランドに到着する。イングランドを襲った北欧ヴァイキングは、当時の英語で Dene すなわち「デーン人」と総称されることが多かった。しかし、ノルウェー系のヴァイキングも北イングランドに入植したことは、この連載の第1回、第2回にも記したとおりだ。スウェーデンのヴァイキングはどうだろう? スウェーデンに残る幾つかのルーン碑文は、スウェーデン人もイングランドへヴァイキング行に赴き、荒稼ぎをしたことを記録する。ガムラ・ウプサラにある大きなルーン碑文によると、豪農シグヴァーズルは、イングランドに何度も赴いたために「イングランド渡り(Ænglandsfari)」などと呼ばれたそうだ。

また、この種のルーン碑文で最も有名なのが、オルケスタにあるウールヴル(Úlfr)の記念碑だ。「ウールヴルはイングランドで3度「支払い」を受け取った。1度目はトースティが払い、次にソルケッルが払い、次にクヌートルが払った」とあ



中央墳丘墓（アウンの塚?）より西墳丘墓（アジルス塚?）を望む
季節は夏

ガムラ・ウプサラにある、気分を盛り上げてくれそうな、ヴァイキングの蜜酒を振る舞う居酒屋オーティンスボリ 残念ながら閉店中



雪をかぶったガムラ・ウプサラの3大墳墓



ルーン碑文

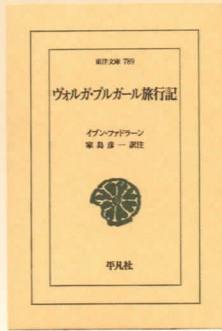
「アンドヴェトル、カール、キーティ、ブレシとデアルヴルはこの石を父ゲンレイヴルの記念に立てた。彼はイングヴァルとともに東へ行って殺された。彼らの魂に神のご加護を。操舵の得意なアルリークルがルーンを刻んだ」とある (Varpsund, U654)



イングヴァルの航海を追ったマツ・G・レーション著『悲劇のヴァイキング遠征：東方探検家イングヴァルの足跡 1036-1041』

荒川明久訳
(新宿書房, 2004年)

イブ・ファドラーン『ヴォルガ・ブルガル旅行記』
家島彦一訳 (東洋文庫 789, 平凡社, 2009年)



スウェーデン出土の銀貨
アラブ圏およびビザンティウムの通貨。東方に向かったヴァイキングたちは良質の銀を求めたという

る。これはウールヴルが3度にわたってイングランドを襲うヴァイキング行に赴き、1度目は「戦のトースティ」と渾名された富裕のスウェーデン人トースティと、2度目はヨームのヴァイキングの長ソルケッルと、3度目には、後にイングランド王になるクヌートとともに航海し、そのたびに休戦の条件としてイングランド王から「北歐人への金」を受け取ったので、それぞれの攻撃の主権者たちがウールヴルにその分け前を払った記録だと解釈されている。

東に向かったスウェーデン・ヴァイキング

一方、スウェーデンのヴァイキングが東にも向かったことはよく知られている。彼らはルース（ルーシ）と呼ばれ、「ロシア」の国名のもとになったと考えられている。ヴォルガ川やドニエプル川を船で旅をしたヴァイキングは、コンスタンティノープルという（東）ローマ帝国の首都に着くと、皇帝の近衛兵としてヴァランジアン親衛隊（Varangian Guard）と呼ばれる集団を形成した。西欧で恐れられた勇猛果敢なヴァイキングは東欧では皇帝陛下の兵となって名誉を得、皇帝自身も心強い味方を手に入れたわけだ。

しかし、さらに先へと冒険の旅に出たスウェーデン人もいた。イングヴァルと呼ばれる男で、彼とともに船団を組んで東

を目指したスウェーデン・ヴァイキングが大勢いた。しかし、イングヴァルは途上で病死。仲間たちもほとんどが死んでしまい、スウェーデンに帰国したヴァイキング船はたった一隻だった。この悲劇は伝説となり、14世紀のアイスランドで『イングヴァルのサガ』として写本に書き残された。今も、スウェーデンのメーラレン湖周辺には、イングヴァルとともに東方に渡って帰らなかった肉親を悼むルーン碑文が幾つも残っている。

このような東に向かった中世のスウェーデン人ヴァイキング（ルーシ）の荒くれぶりについては、イスラム教徒イブ・ファドラーンの報告書によって知ることができる。洗練されたイスラム文化の視点から、当時のスウェーデン・ヴァイキングの衛生面での問題が興味深げに語られるが、何より読者の耳目を引くのは、彼らの宗教的な儀式を伝える貴重な記録であろう。

ウプサラ：北欧神話の聖地

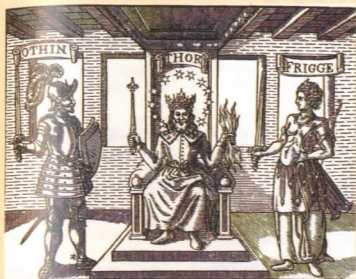
古英語『ベオーウルフ』にも、デーン人の王フロースガールが、怪物に悩まされた際、異教の偶像に助けを求める場面が描写される。当時のイングランド人にとって、北欧は異教徒の土地なのである。

しかし、北欧人の宗教、北欧神話の最も重要な聖地と
いえば、恐らくスウェーデンのガムラ・ウプサラ、「旧ウプサ



『北方民俗文化誌』(Historia de gentibus septentrionalibus, Rome: 1555) からの木版画

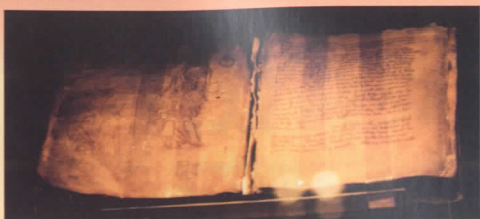
ブレーメンのアダムの記述の影響か？ ウプサラの司教だったオラウス・マグヌスが著した。ソールを主神に、右にオージン、左にはフレイルの代わりにフリッグがいると思われる



『サクノ・ゲラマトイクスの「デン人」の歴史』(Sero: 1645) からの木版画

さらに、オラウス・マグヌスの影響を受けたと思われる、デンマークの歴史学者ステフェン・ハンセン・ステフェニウスの著書。ここでもソールが主神とされている

『ウプサラ・エッタ写本』(Uppsala universitetsbibliotek, Codex De la Gardie 11, ff.26v-27r; bls. 50-51) ウプサラ大学図書館に展示されている



オージン扮する三人の王と語る
ギルヴィ王

同上 f.26v.



ヴァチカンに所蔵されている、ブレーメンの
アダム『ハンブルグ=ブレーメン教会司教の事蹟』写本 (Vaticano, Biblioteca Apostolica Vaticana, Vaticani Latini 2010 (1450年))
より、25章〜26章

ウプサラの異教神殿についての既述。Thor, Wodan, Fricco という神々の名が確認できる

reddunt. Itaque multa tentant solent. que becuntari
studens omni. ab his dicendi. qui ista se vidisse testi-
tur. Ne de suppositione sitentia pauci dicimus.
Dobis illi illa gens templi hinc. quod ubi sola de
no longe possint. ab hinc a cui. In hinc templo quod
totum a quo patii e statuas tui dicit. uelut ipsius
ita ut potestatem. hoc est in medio solui habent
tandem hinc. s. inde loci possident uodan. e. frico.
Quor significaciones auidadi ff. hinc. uelut pfecti
in aax. qui tount. e. fulmina uentes ymbresq. fer-
ua. se fruges gubnat. At uodan. i. frico bella gen-
tior. uelut iuste con. uniuers. terris e frico pa-
cem uoluptates. Lugens moratib. Uic. cui simu-
lari fugit ai ugenti paxo. Wodan. uelut uelut. ma-
ni. sic uti mare solent. hoc. nit ai capto ioue sinu.
Line uelut. tot. e. deos e. tot. factos quos. p. ugentib.
factis inuocantur. don. ut. sic. in uita. s. Infirmi legi-
tur. uelut. regem fecit.

Omnia itaque dicitur hinc. attributos hinc. sacerdotis
qui sacra ipsi offerunt. Et peth. e. hinc. in
muer. hoc. uelut. hinc. si. bellu. uodan. si. nupte. cele-
bnde. ff. frico. e. uelut. q. p. uelut. uelut. uelut. uelut.
om. suone. p. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut.
n. id. q. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut.
ge. e. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut.
uol. e. qd. oi. pena. crudel. e. illi. q. uelut. uelut. uelut. uelut.
tem. ab. ille. se. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut.
le. e. er. oi. uelut. qd. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut. uelut.

ラ]であろう。ウプサラの名を一躍有名にしたのは、11世紀の聖職者ブレーメンのアダム (Adam of Bremen) の著した『ハンブルク=ブレーメン教会司教の事蹟』(Gesta Hammaburgensis Ecclesiae Pontificum) である。この書物に記された異教の神殿に関する記述によれば、北欧の神々の中の最高神は雷神ソールであるという。ウプサラにあった神殿には3つの神像が祀られていたが、天空を支配し、天候と穀物の実りを司るソールの像こそが真ん中の座を占めていた。一方、オージンは怒りの神で、戦いに際して戦士に力を与え、3人目の神フリッコは、恐らくフレイル神と思われるが、性の喜びを人に与えるとされた。

現在、ウプサラ市街からバスで30分もかからないガムラ・ウプサラには、アダムが記したような神殿など建ってはいないが、先史時代の大きな墳墓が3つ並んでいる。アイスランド人スノッリ・ストゥルルソンの著した『 Heimskringla 』(連載第4回を参照)の「イングリガ・サガ」には、伝説の王アウン、アウンの息子エギル、エギルの孫のアシルスがウプサラで墳墓に埋葬されたと記されている。そこでこの3つをその3人の王の塚だと呼ぶ人もある。一方、北欧神話の3人の神々の名をとって、オージン、ソール、フレイルの塚と呼ぶ人もある。神話・伝説の雰囲気満ちた聖地だ。

一方、新市街にあるウプサラ大学には、北欧人の宗教・神話に関する最も重要な写本が収蔵されている。スノッリの『エッタ』の現存最古の写本「ウプサラ・エッタ」だ。「北欧神話の教科書」である『エッタ』は、現在ではもった書き足した写本に基づいて読まれているが、1300年代初期に記されたこの写本には、なんと挿絵が描かれている。主神たるオージン扮する三人の王——高き者 (Hár)、同じくらい高き者 (Jafnhár)、三番目の者 (Þriði) ——が玉座に座り、その前に杖を持った伝説のスウェーデン王ギルヴィ (Gylfi) が立ち、北欧の神々やその世界について尋ねている。

大学図書館の展示室で照明を落とした薄明かりの中に浮かぶ羊皮紙の書物を見るとき、北欧神話の記録をキリスト教徒として書き写した写字生の思いはいかばかりだったろうか、と思わずにはいられない。それはまた、『ベーオウルフ』を筆写しながら、異教時代のイェーアト族の英雄を称える古英詩を読んだ修道士の心に去来する想いと相通するものだったのかも知れない。変転する中世という時代の中で過去を見つめながら、イングランド人も北欧人も、どんな時代が新たに到来することを期待していたのだろうか。21世紀に生きる我々も、中世の北欧・イングランド人の歴史に思いを馳せつつ、新たなる年に期待したい。